

## 予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

### 事業名 地場産業の技術承継・新商品開発プロジェクト

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部 産業技術課 技術支援係 電話番号：058-272-1111 (内3744)

E-mail：c11352@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 19,163 千円 (前年度予算額：11,219 千円)

#### <財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	11,219	4,320	0	0	0	0	0	0	6,899
要求額	19,163	8,417	0	0	0	0	0	0	10,746
決定額	19,163	8,417	0	0	0	0	0	0	10,746

## 2 要 求 内 容

### (1) 要求の趣旨（現状と課題）

工業技術研究所、産業技術センター、情報技術研究所を統合した産業技術総合センター、食品科学研究所、さらには各研究所が蓄積してきた各分野（機械・金属・情報・食品・セラミックス・木材）の基盤技術を活用し、地域企業の取り組む様々な技術開発や新商品開発を強力に支援するとともに、熟練者の技術をデータ化・標準化するなどして承継し、地域企業の技術力の底上げと持続的発展による産業振興を推進する。

### (2) 事業内容

#### 【地場産業分野】

- ・岐阜県式切れ味試験の標準化・普及を進めるとともに、刃物の評価に適した非接触形状評価技術の開発を行う。これにより、県刃物製品の競争力を強化するとともに、新たな関ブランド商品の開発を支援する。
- ・圧力鋳込み成形時に使用する様々な坯土（一般磁器、強化磁器等）の、調整条件、鋳込み成形条件等のデータベース開発を行い、データベースを活用した新規圧力鋳込み成形機を開発する。
- ・木製品の質感や形状をバーチャル情報であってもリアルに伝達する手法を開発する。また、手法開発に必要な実物の3D形状データの計測手法を開発する。さらに新規伝達手法を活用した、より質感の良い木製品を開発する。

#### 【食料品分野】

- ・岐阜県内で栽培されている米を加工原料として有効活用し、「酒米」「低グルテリン米」「ハツシモα化米粉」を使った新たな商品開発や用途開拓を行う。さらに、製造技術のデータ化による技術承継を進めるとともに、県産米の需要拡大、流通価格の安定を図る。

### (3) 県負担・補助率の考え方

地域産業を活性化させるために地域企業の取り組む様々な技術開発や新商品開発の支援を行う。

### (4) 類似事業の有無

無

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	908	職員旅費（企業、共同研究機関との打合せ、学会参加）
需用費	4,386	研究開発のための各種消耗品
委託料	600	部材の外注加工、試作品製作委託
使用料	431	研究開発機器の使用料
備品購入費	12,360	研究備品の購入
その他	478	試作品運搬費、学会参加負担金等
合計	19,163	

### 決定額の考え方

--

# 事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

## 1 事業の目標と成果

### （事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

各研究所の研究推進計画に沿って、成長産業から地域産業まで地域企業の取り組む様々な技術開発や新商品開発を強力に支援するとともに、地域企業の技術力の底上げと持続的発展による産業振興を推進する。

### （目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
① 技術移転の推進		4件	4件	4件	6件	

### ○指標を設定することができない場合の理由

### （これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<p>○「刃物製品のブランド力向上のための切れ味評価技術の開発」に取組み、刃物の三次元形状を評価するため、画像測定器で測定した全体形状とレーザー顕微鏡で測定した微細形状のデータを統合するソフトウェアを開発した。</p> <p>○「県産米を有効活用した岐阜ブランド商品の開発」に取組み、未利用資源の蜂産品加工残渣に麹菌を作用させ、アミノ酸を得る手法を企業と共同開発し、特許出願した。</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和5年度	<p>令和7年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

## 2 事業の評価と課題

### (事業の評価)

・ <b>事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</b> 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	企業ニーズ調査の中で、県の成長・雇用戦略と合致しており、要素技術の進化やグローバル化世界経済のデジタル化、Connected Industries による産業構造の大きな変化、高齢化、人口の減少による技術伝承の問題等の社会的問題などに対して必要とされている課題を取り上げていることから、必要性は高く、地域からも期待されている。
・ <b>事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</b> 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	研究課題の内容について、ヒアリングを行い本年度実施内容の確認を行うとともに、進捗確認を行った。
・ <b>事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)</b> 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	研究課題に対する中間評価を実施することとしており、得られた意見に応じた軌道修正、および効率化を図る。

### (今後の課題)

・ <b>事業が直面する課題や改善が必要な事項</b> 地域企業のニーズに基づいて、柔軟に対応していく必要がある。
--

### (次年度の方角性)

・ <b>継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか</b> 業種別懇談会等で得られる企業ニーズに基づき、研究課題の方角性を微修正し、技術開発や新商品開発の強力な支援を進める。
---